

里山における新たな鳥獣被害防止対策推進事業

目的

近年、シカの生息域は県北東部から中北部へ拡大しており、シカによるヒノキ・スギの苗木への食害が増加するなど、森林所有者の林業生産意欲を減退させる一因となっている。

こうした中、狩猟者の高齢化等が進展している中山間地域では、森林内に生息するシカの効果的捕獲対策への重要度が高まっており、その対策としてDXの活用を目指す地域があるが、新たな技術には課題が多いことから、その具体的かつ効果的手法の確立を目指す。

令和5年度事業概要

1 事業内容

○シカの効果的捕獲技術確立に向けた検証

既にドローン等を導入している先進地区において、市町村、狩猟関係者及び専門家と連携し、森林内でDXを活用した効果的なシカ捕獲技術の確立に向けた検証を行い、狩猟者の負担軽減につながる省力化・効率化を目指す。



<撮影用ドローン>



<ドローンによる撮影>

2 事業主体 県（株式会社野生鳥獣対策連携センターへ調査業務委託予定）

3 令和5年度 おかやま森づくり県民税充当額
2,997千円

4 事業期間
令和5年度